

平成30年度 横浜市市民活動支援センター（自主事業）中間振り返り

事業実施団体名
特定非営利活動法人 横浜市まちづくりセンター
事業名
横浜市市民活動支援センター自主事業部門（補助事業：平成30年度） 【テーマ】課題解決に取り組む団体等の支援を行う事業 【事業名】「活動を展開する場所づくり支援事業」
事業概要
<p>高齢者、障害者、子育て親子の支援等を図る市民活動団体が増加している中、市民活動団体が活動を展開する場所をつくること出来ないという課題がある。</p> <p>一方で、少子高齢化の進展に伴い、横浜市内の各地域の住宅地で空き家となっている住宅や、商店街で空き家の店舗が増加している状況である。しかし、これらの空き家住宅や空き家店舗の中には、都市計画法、建築基準法、消防法等との法令に適合の上、用途変更や改築、改修・改装を行うことにより、市民活動団体が活動を展開する場所として活用できる物件がある。</p> <p>そこで、市民活動を展開したい地域にある空き家（店舗）等を借り受けて、活動を展開する場所をつくる際の課題をワンストップで解決できる相談先や専門的なコーディネート機能を活用しながら、本事業を通じて当団体の中間支援機能を検証し、中間支援機能の向上を図っていく。</p>
事業進捗状況
<p><u>1. 支援に必要な知識や技術の習得（中間支援機能向上研修会開催）</u></p> <p>空き家の活用事例から居場所や活動拠点づくりの支援のあり方を学ぶ研修会を、外部講師を中心に3回実施。</p> <p>①8月28日（火）「空き家等の公的な活用、地域のまちづくりとは」 参加人数：20人 ②9月11日（火）「拠点・居場所の運営・マネジメント」 参加人数：23人 ③9月28日（火）「空き家利活用を進めるポイント」 参加人数：19人</p> <p><u>2. 情報・ノウハウの提供（講座・見学会開催）</u></p> <p>「活動場所を見つけるノウハウを学べる3日間」講座を、横浜市まちづくりセンターが講師となり3回実施。</p> <p>①10月27日（土）「場所探索・選択方法について」 参加人数：20人 ②11月10日（土）「改築・改修・改装」 参加人数：17人 ③12月15日（土）「現地見学会」</p> <p>また、今後の活動として、<u>3. 相談・支援対応（アドバイザー・コーディネーター派遣）、4. ノウハウの蓄積・コーディネート機能の向上（ガイドブック発行）</u>を予定している。</p>
主な意見交換内容
<p>（委員）具体的にはどれくらいの相談件数があるのか。</p> <p>（横浜市まちづくりセンター）件数的に答えるのは難しい部分もあるが、具体的には、講座参加者で事務所を探している障がい者支援の団体と一緒に現地を見に行ったり、また、当初の企画にはなかった</p>

講座終了後の個別相談会を設け2団体に対応した。そのうちの1団体は移転先の候補があり、そこから先に進むためのお手伝いを行った。もうひとつは学童クラブの移転先の相談対応だった。具体的には本事業で動き始めているのはこの3団体だ。できればもっと、このアドバイス・コーディネート機能を市民活動支援センターに登録している団体に情報発信し、当団体を使っただけだと考えている。

(委員) 学童クラブについては法律が厳しくなっている。特に耐震構造問題は、市内200か所以上の学童クラブが右往左往している。その中で、貴団体の立ち位置、関連性はどこにあるのか。

(横浜市まちづくりセンター) こども青少年局と協働事業で覚書を締結し支援している。具体的には、現在、約50か所が耐震基準を満たしていない。このような状況から、学童クラブに出向いてアドバイスを行っている。このような中で1つの成功事例が生まれようとしている。

(委員) 今報告のあった学童クラブなどの事例が、今後、どのように団体の人材育成や中間支援機能の強化につながるのか。

(横浜市まちづくりセンター) そこは大きな課題でもある。当団体の会員の人材育成については、正直難しい部分も多い。土業の方が自己研鑽して新たなものに取り組んでいくこと自体がなかなか難しく、内部研修でやるのが非常に難しい部分だ。団体内部の人材育成のためどんどん外に出ていってもらいたいとは考えているところだ。

(委員) ハード的なものを整備するのに、ソフト的なものも変えていきたいとのことが良く分かった。会員の問題は現状のままだと大変のように思うし、そこが大事なところでもある。また、ハード建っている場所からどんどん周辺にソフト的なものを広げていくことも大事だ。是非、会員とともにその点についても考えて行って欲しい。

(横浜市まちづくりセンター) 当NPOはとても特異な存在で、全員が土業の資格をもっている。しかし当NPOから報酬をもらっている人はない。弁護士、税理士、司法書士、土地家屋調査士など専門家がたくさんいる。この強みは、ワンストップですべてが出来ることにある。是非、いろいろな方からいろいろなお力添えをいただきたい。

(委員) せっかくのワンストップを、1団体のワンストップではないように、継続して組織力を活かしながら進んで行ってほしい。

(委員) 貴団体が採択されたとき大変大きな期待があった。ひとつは、普通のまちづくりではなく、専門家が集まることによる今までとは違うネットワークの構築だが、是非頑張ってください。同時に会員の啓発だけになってしまうと、この事業には合わなくなってしまうので、その点は留意しながら事業を進めて行って欲しい。また、横浜のいろいろな団体を支えるために、事業のプログラムを使って欲しい。数は少ないかもしれないが、先ほど話に出た3団体が、どんなふうに貴団体とつながって、何がうまくいったのか、何がうまくいかなかったのか、そうした経験談を集めてもらい、貴団体が他の団体と付き合う時の付き合い方が、他の団体にも伝わっていくといいと思う。

(横浜市まちづくりセンター) おっしゃるように努力していきたい。